

会 議 録

会 議 の 名 称	平成25年度 第1回所沢市立所沢図書館協議会
開 催 日 時	平成25年7月26日(金)午後2時00分～午後4時30分まで
開 催 場 所	所沢市立所沢図書館 3階集会室
出席者の氏名	高野 幸子、内野 正行、越阪部 芳加、風間 俊克、柳沢 栄子
欠席者の氏名	成田 桂子、工藤 恭子、清水 正、及川 道之、村上 公子
説明者の職・氏名	
協 議 事 項	(1)所沢市図書館ビジョン目標値の設定について (2)子どもの読書活動推進計画(第2次)策定について (3)その他 報告事項 (1)指定管理者制度平成24年度事業報告及び平成25年度事業計画について (2)その他
会 議 資 料	(1) 会議次第 (2) 資料1～7 (3) 所沢市立所沢図書館協議会
担 当 者 名	教育総務部長 平野 澄彦 教育総務部次長 斉藤 雅裕 図書館長 岸 企子 図書館副主幹 武藤 博 " 副主幹 奥村 稔 図書館主査 田中 和子 " 主査 中村 まさみ " 主査 小澤 朋子 " 主事 濱本 恵代 株式会社ヴィアックス 西門 直 " 太田 正樹 所沢分館長 今村 道雄 新所沢分館長 氏家 和正 教育総務部 所沢図書館 電話 2995-6311

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
岸館長	<p>1 開 会</p> <p>所沢市立所沢図書館平成 25 年度第 1 回図書館協議会を始めさせていただきます。</p> <p>本日、開催のご案内を申し上げましたところ、成田委員、工藤委員、清水委員、村上委員から「所用のため欠席」とのご連絡をいただいております。</p> <p>2 あいさつ</p> <p>平野部長より「所沢市図書館ビジョンにつきましては、計画期間が平成 25 年度から 30 年度の 6 年間であり、ビジョンの実現に向けてしっかり取り組むことが使命と考え、身の引き締まる思いでございます。本日の会議では、皆様から忌憚のないご意見をいただきますようによりしくお願い申し上げます。」とあいさつがあった。</p> <p>また、4 月 1 日付の人事異動に伴い、事務局に変更があったことから、事務局職員の自己紹介を行った。</p> <p>会議録署名人は、出席委員の中から高野委員、内野委員とすることとし、記録方法については、要点筆記方式とすることを確認して協議に入った。</p> <p>3 協議事項</p> <p>（ 1 ）所沢市図書館ビジョン目標値の設定について</p> <p>< 中村主査及び田中主査より、資料 1 . 所沢市図書館ビジョン目標値について説明 ></p>
委員	<p>目標値が 5,6 桁ほどの場合、一の位まで設定する必要があるのか疑問に感じた。また、現状維持という目標値について、実状を知っている職員からすると、最初は現状維持で最後はぐっと伸びるとか、伸びてあとは現状維持ということもあると思うが、はたして現状維持が目標値としてよいのだろうか。加えて、子ども 1 人当たりの児童書数の目標値について、平成 26 年度から 27 年度の間で 0.2 冊増える理由を聞きたい。対象年齢は 0～18 歳の人口となっており、18 歳でも児童書と言えるのか少し疑問だが、これは図書館での分類が 0～18 歳になっているためか。</p>
田中主査	<p>子ども 1 人当たりの児童書数は、目標値が平成 26 年度は 5.29 冊、平成 27 年度は 5.41 冊となっており、小数点第 2 位を切り捨てたため、0.2 冊の増加となった。対象年齢は、第 1 次の「所沢市子どもの読書活動推進計画」に合わせた。</p>
委員	<p>小数点第 2 位までの数値や 0.05 単位での数値などにすると、もっとなめらかになると思う。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
議長	<p>児童書というと絵本や小学生向けのものがあるが、高校生向けのものでも児童書という分類があるのか。一般図書の中でも高校生が読めるものも当然あるが、蔵書の分類はどのようになっているか。</p>
田中主査	<p>児童書は基本的には0歳から中学生くらいが中心だが、高校生や大人も読める本もある。ティーンズ向けの図書は児童書としてコーナーを設けている。</p>
中村主査	<p>同じタイトルのものでも、中高生が読めるものは一般書のものと同書のものとして分けて分類をつけている。そのため、ティーンズ向けの児童書は、同じものが一般書にも所蔵している場合があり、一般書と児童書で所沢図書館に2冊以上所蔵しているものもある。</p>
議長	<p>「一の位までの目標値が必要か」ということについては、私も賛成する。そこまで細かな数値を出してもあまり意味はない。</p>
中村主査	<p>数値は丸める方向で整える。</p>
委員	<p>子ども1人当たりの児童書数について、分母が18歳未満の人口数の推移となっているが、少子化で子どもの人口が小さくなると自然と数値は大きくなっていく。その点も考慮されているのか。</p>
田中主査	<p>考慮している。</p>
委員	<p>計画期間5年間の中で、毎年の実績値が増加あるいは減少した場合に、目標値は変更しながら毎年微調整していくのか。</p>
中村主査	<p>基本的には平成30年度までの目標値の変更は考えていない。減少した場合には、努力をして増やしていく。</p>
委員	<p>子ども1人当たりの児童書数について、第1次の子どもの読書活動推進計画では平成25年度の目標が1人当たり6冊になっている。しかし、ビジョンの目標値は平成30年度で5.7冊と低い目標に変わっている。</p>
田中主査	<p>所沢市の児童数の推移と、予算上の理由から厳しい現状があるため、現実的な数値に下方修正した。</p>
議長	<p>過去の伸び率などを参考に目標値を算出したようだが、達成可能な数値のように感じる。蔵書数を例にとっても、購入するものと寄贈されたものを合わせ、除籍資料数を減らせば達成できてしまう。これまで除籍</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
齊藤次長	<p>していたものを、本当に除籍すべきものだったか少し見直すだけで、数値は1%くらい簡単に動いてしまう。指標のところは、目標値の算出根拠を示して、図書館がどのように目標を達成しようとしているのかを市民に分かるように、説明を公表した方がよい。そして、どのような努力をする予定でそれを達成したのかを評価する指標にするべきだと思う。単純に数値を比較して評価するだけでは、その場限りで終わってしまう。</p> <p>「子どもの読書活動推進計画」作成当時は、子どもの読書活動を推進していくにあたって、しっかり予算を確保し、全体の図書購入予算や蔵書の購入割合も考えていかなければならないという思いで目標を設定し計画を作成したが、現実的には厳しいものがあった。子ども1人あたりの児童書数は、こちらで精査したい。これまでも議長は購入だけが資料を増やす手段なのではなく、寄贈を受けることも手段のひとつだとおっしゃっていた。また教育委員会の中でも、家庭に眠っている本を何とか図書館や学校へ出してもらって、ぜひ外の方に見てもらえるようにすることも必要だと話があった。数値については精査していくが、今後の方向としては、目標数値に関わらず可能な限り高い数値を求めていきたい。ただ、現在も寄贈をいただいているが、貸し出すための装備に手間がかかっているので、多方面にお願いをしながらも、図書館もできる範囲で寄贈図書を市民に提供できるよう努めてまいりたい。</p>
議長	<p>1人あたりの児童書数はこれまで6冊を目標にしてきたのだから、わざわざ後退しなくてもいいではないか。</p>
中村主査	<p>目標値を高く掲げることも考えたが、図書館として必要なものを所蔵していくという考えに基づき、達成可能な範囲の数値を掲げた。その数値についてはご指摘を踏まえ、再度精査したい。</p>
議長	<p>図書館で必要な本を司書が調べて、必要な本でも買える本と買えない本があると思う。その買えない本を寄贈してもらえばいいのではないか。必要な本だが今の予算では買えないということを明示して寄贈してもらえば、不要な本が来ることはない。予算が足りないからと言って予算内で買える図書だけで目標値を設定していいのか考える必要があると思う。事務局の説明を聞いていると、過去の平均や伸び率から、達成可能な目標値しか出していないように感じる。そうすると、今までどおりやっていたら達成できる目標値と取られかねない。それと、利用者満足度はいくつかの項目で満足度を聞くのか。</p>
中村主査	<p>満足度を問う項目自体は1項目。アンケートは10項目程度あるが、その中の1項目を満足度の評価としてとらえている。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
議長	それをどうすれば毎年0.01 ずつ伸ばしていけるのか。
中村主査	図書館ビジョンの達成の成果と考えているので、ビジョンの施策を実施し、それによって満足度を上げていきたい。
議長	蔵書や施設、サービスなど様々な評価項目がある中で、全体的な満足度を1項目で評価してもらう形では、難しいのではないかと。また、その全体的な評価を0.01 ずつ上げていくということだが、平成30年度の最終目標を当初からの目標としてもいいと思う。その数値を目指していくのであれば、0.01 ずつ刻む必要はない。蔵書数のように毎年増やしていくものは数値も段々になるが、単年度のものには毎年上げる幅が何を根拠に設定されているかわからない。単年度のものには最初からそれを目指していけばいいと思う。毎年増えていくものと単年度のものとは、考え方は違うのではないかと。
岸館長	最終目標は高めに上げていく方向で再検討する。また、当初にあげてあとは現状維持で進めていきたい。
議長	当初にあげるというよりは、30年度に目標としていることが、平成25年度でも同じ目標なのではないかと思う。蔵書数などは段々に積み重ねていくことで達成されるが、満足度について相対的な評価では、図書館として何をしたら0.01上がるのか、対応のしようがないのではないかと。評価が悪かった場合に、カウンターの職員が高圧的だとか具体的に悪い部分があれば改善できるが、1項目での評価では、どこに力を入れていけば満足度が高まるか、つかみどころがないと思う。
中村主査	アンケートで満足度を測る項目は1項目だが、アンケート自体には窓口での対応や蔵書、各館のサービスについての項目もある。そちらも合わせて検証し、どの部分を修正していくかは毎回反省していく。
委員	考えてみると、司書率と職員研修等参加のべ人数も、現状維持ではなく最終目標を当初年度から追っていくということなのかなと感じた。果たして30年度に司書率が75%でよいのか、業務に支障がないのかどうか、職員研修は70人を最終目標にして職員の資質向上になるのかどうかという観点で見えていくと、現状維持というより「ここまでは絶対持っていこう」と、基準として考えている部分があるのかなと思う。現状維持と最終目標という言葉の使い方を考えていただき、指標の積算基礎や見方があると分かりやすい。あと、郷土資料受入点数について、電子化になったものは点数に入れないから1,010点で現状維持という解釈でよいかと。

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
小澤主査	<p>図書館では以前から市役所等の協力を得て行政資料を集めているが、最近では県内の資料が集まりづらく、問い合わせをしても他市に配るほど部数を作成していないため「ホームページをご覧ください」という回答が多い。また、最近のニュースでは、データベースの普及により六法全書の出版もなくなるという。電子資料に限らず、行政資料もホームページでの公開が進み、冊子としては複数作成しないという状況になっている。今後紙媒体として資料は増えないと担当は予測しているが、郷土資料を絶えず集める努力はしていく。現在過渡期にあり、目標値は設定しづらい状況であるため現状維持とした。資料を図書館に送ってもらうのではなく、ホームページにアクセスするという形式になった場合は、郷土資料の受入点数とは別に、別の次元で別のサービス方法を考えなくてはいけないと考えている。</p>
委員	<p>これまで冊子で見られていた他市の資料や所蔵していた資料等も、「こういう形でアクセスして入手してください」という案内ができるとうよいと思う。</p>
委員	<p>子ども向けの行事参加者数は、毎年 10%増加と一番伸び率の大きい指標だったと思うが、今後行事数を増やす方向で 10%増を達成するのか、それとも周知を図って「出ていく図書館」というような外に宣伝に出ていく方向でいくのか、10%を達成するための戦略や取組はあるか。</p>
田中主査	<p>すでに実施している行事に加え、これからは外へ出て行って様々な場所でおはなし会等を行うことも必要だと考えている。図書館に来る子どもは一部で、図書館の近くに住んでいる子や、親が熱心な家庭の子が多く、多くの人に来てもらわないと始まらない。行事を工夫して図書館に足を運んでもらい、おはなし会などを通じて本と結びつけていきたい。ここ数年はスペシャルおはなし会など小さい行事でコツコツ参加者数を増やしている。新所沢分館が開館したこともあり、順調に行事参加者数が伸びているので、目標達成を目指して取組みを進めていきたい。</p>
委員	<p>子どもたちがいる場所を考えると、児童館に出向いたり、学校に放課後特設コーナーを設けるなど、色々な方法がこれから開発できると思う。10%増加を達成するためにもさまざまなことに取り組んでほしい。</p>
議長	<p>子どもの行事参加人数は、既存の行事の参加者を増やすのと新たな行事を行って増やすという二つの方法によって増加を目指す中で、10%が適当なのかどうか、企画としてどんな成果があるか頭に置いて取り組んでいく必要があると思う。学校関連団体貸出というのは、どんな団体に貸しているのか。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
田中主査	<p>小中学校は学校連絡便があり、従来から行っている。他にも、高等学校や特別支援学校、幼稚園、保育園、児童館等も含めて、児童・生徒・幼児が来るところに団体貸出を拡大していきたい。</p>
議長	<p>学校に 100 冊単位くらいで図書館の蔵書を貸し出して、何か月かおきに各学校で回すなどしたらどうか。子ども達が図書館に本を借りに来たときに本がないと困るというよりは、借りたい人がいるところへ本を持っていくという仕組みも必要だと思う。それによって子どもたちが本に親しむ機会を増やすということができるので、公共図書館と学校図書館が連携してもっと積極的に進めていってもいいと思う。</p>
委員	<p>全クラスで図書館から本を借りている学校もあるが、すべての学校が団体貸出を利用しているわけではない。年に 1 回は借りるようにすると、学校の行事に関連した話題のある本を借りるなど P R できるとよいと思う。ちょっとしたアイデアでいろんなきっかけができると思うので、そうした事例を紹介しながら、情報発信できるとよいと思う。</p>
委員	<p>そうすると図書館だけに任せるのではなく、学校の活動として図書館を利用する取組も必要になる。学校の取り組みから図書館が動いてくれることもあるので、学校でのかじ取りも大事だと思う。それと、所沢市の人口に対して、学校や図書館の充足率や蔵書率がだいたい何%かという統計は出ているのか。</p>
斉藤次長	<p>学校の充足率は毎年統計をとっており、90%半ばとかなり高い。ただ、変わらず昔から読まれる本もあるが、新しい図書の購入は難しい現状がある。学校の方も保護者の方や地域の方から本を募るなどして数値を上げているが、全体的には 90%台の充足率になっている。所沢図書館はだいたい 90 万冊近く所蔵がある。県内では、さいたま市が政令指定都市のために別格としても、川口市、越谷市、川越市と同じくらいの規模で、県内では川口市に次いで 3 番目くらいだった。ただ、市民一人当たりになると、大きな都市の方が低くなる傾向がある。しかし、絶対数が多いということは、それだけ市民の方がいろんな本を見る機会は多くなると言える。</p>
平野部長	<p>平成 24 年度の蔵書数は、さいたま市、川口市に次いで所沢市が 86 万 7 千冊程度だが、一人当たりの蔵書数は 2.53 冊で平均 3.07 冊を下回っている。</p>
議長	<p>郷土資料受入点数について、行政報告書や調査報告書など所沢市の行政で作成した資料が基本となっているのか。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
小澤主査	<p>そういった資料がほとんどを占めている。一般に市販されているもので埼玉県と所沢市に関わっているものは、毎週の選書の中で必ず購入するようにしているが、それ以上に行政から回ってきた発行物が多い。これらの資料は、毎年文書を市役所に送って依頼したり、職員が市役所内を見てパンフレットホルダーにあるもので、図書館に所蔵がないものは声をかけていただいたり、新聞等で市内在住の方の著作が掲載されたらそれをチェックするなど、地道に集めている。</p>
議長	<p>将来的には、ホームページで検索しなければならない電子データなどをどうするかが課題になってくる。そういうアクセスすべき場所のリストが整備されていくとよいと思う。また現在は、県立図書館は専門的な書籍を収集し、市町村は一般的な資料を収集するという役割分担になっており、市町村では高い専門書は県立図書館から借りるなどしている。考え方として、市で持っている蔵書と、一時的に他市から預かって貸している「みなし蔵書」を提供しているということをもっと出してよいと思う。</p> <p>まとめると、数値の基本的な考え方はある程度数値をまるめて、目標値の算出根拠が分かるように、どういう考え方に立っているのか市民が分かるようにある程度解説をつけるなど工夫していただけたらと思う。</p>
斉藤次長	<p>本日はたくさんご意見をいただいたので、図書館の方でもう一度精査したい。ビジョンでは現状値と30年度目標だけになっているが、ビジョン以外で毎年の目標値も公表していくかということも含めて検討し、進めていきたい。</p> <p>（2）子どもの読書活動推進計画（第2次）策定について < 田中主査より、第2次所沢市子どもの読書活動推進計画の策定について説明 ></p>
委員	<p>小学校の学校図書館利用率が低下しているのは、確かに休み時間に外で遊ぶことを進めているからかもしれない。所沢中学校の場合、図書委員会がキャンペーンを行っており、何冊借りるかをクラスで競争したりしているので、キャンペーン期間中昼休みは図書室が生徒でいっぱいになる。それも影響して中学校は利用が増えているのかなと感じた。</p>
委員	<p>ただ、小学校も利用していないということではない。利用をどういう場で評価するかという評価の仕方を変えていくことによって、実際はどのように図書館を利用している子が増えているのかを見ていきたい。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
委員	<p>中学校の場合は、放課後の利用はほとんどないと思う。おそらく部活動に入っていない生徒しか放課後図書室を利用しない。中学校では昼休みの利用が中心になっている。</p>
委員	<p>小学校も放課後は不審者対応のため、しっかり下校させており放課後の利用は難しい。やはり評価する場面を変えていくといいと思う。</p>
議長	<p>朝読書などを行っている学校は、やはり本を読まない子どもはゼロなのか。たまたま調査を実施した月に読まなかったということもあるのか。</p>
委員	<p>所沢中学校では朝読書を必ず行っているので、本を読まない子どもはゼロだと思う。ただ、読んでいる本がどうなのか、読書にカウントされるのかを生徒が考えている場合もあるかもしれない。中学校で朝読書をやっていないところは少ないと思うので、普通に考えると全員が本に親しんでいると思う。</p>
議長	<p>子どもの感覚で「私は本を読まなかった」という回答をしたのかもしれない。</p>
委員	<p>朝読書の本を指定しない学校もあり、普通の小説ではなくて、ルールブックなどの部活に関連する本でもよい学校もあると思う。そういう点から7.0%という数値が出ているのかなと思う。</p>
田中主査	<p>回答の際、マンガと雑誌は除くようお願いしている。</p>
委員	<p>以前この協議会でもマンガも読書ではないかと話題になっていたが、おそらくマンガは学校の読書では外している。しかし、最近では日本の歴史など為になるマンガもあり、難しい本もマンガで出ていることがある。はたしてそれを除外することがいいのかも考える必要がある。そういうことも吟味して、子どもの読書活動推進計画の中で検討していてもいいと思う。</p>
委員	<p>読書と言ったらマンガは除外するというのは時代遅れかもしれない。昨年の協議会にもマンガが話題にのぼっていたが、マンガも読書なのかなと思う。</p>
議長	<p>第2次の計画は今後委員会で検討されていくと思うが、昨年の成果等を踏まえて、策定を進めていっていただきたい。</p>

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
	<p>（３）その他 事務局側、委員側ともになし</p> <p>4 協議事項 （１）指定管理者制度平成 24 年度事業報告及び平成 25 年度事業計画について <奥村副主幹及び株式会社ヴィアックスより説明></p>
議長	<p>様々な自治体の指定管理を手掛けている企業として、所沢市の市民の反応をどのように感じているか。</p>
株式会社 ヴィアックス	<p>所沢市の近くでは練馬区、杉並区、中野区を受託させていただいている。パンフレット等も市民の目に留まるよう意識して作成しており、これまで図書館を利用していなかった方にもご来館いただいていると感じている。</p>
議長	<p>これまで公務員の発想では考えられなかったようなことも含めて、力を発揮されて影響を与えてもらえたらと思う。</p>
岸館長	<p>（２）その他 次回の会議については 10 月下旬を予定している。</p> <p>5 閉会のあいさつ 柳沢副会長のあいさつにより、午後 4 時 30 分に会議は終了。</p>